

(2) 岐阜県立大垣北高等学校における実践

<授業実践>

① 授業実践に向けての構え

- ・昨年度は「コミュニケーション能力を高めるための速読力・聴解力の養成」を研究テーマとし、年間を通じて、主として以下の3つの取組みを行なった。
 - (1) 多読練習・速読練習を継続的に行い、実際のコミュニケーションの場で効果的に機能する直読直解の方法を習得させる。
 - (2) 朝リスニングを始めとした聴解練習を日常的に行い、英語の音声に対する意識・関心を高めさせるとともに、聴解の技能を段階的に習得させる。
 - (3) 速読力・聴解力を支える、語彙・文法的知識の定着を図る。
- ・1年間の実践を経て、読むこと・聞くことの領域においては、上記の取組みによって学んだ知識や技能が、生徒にある程度定着したと思われるが、話すこと・書くことの領域においては、まだ十分に効果が及んでおらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養成されているとは言い難い。
- ・このことを踏まえて、今年度の研究テーマは、「直読直解の方法を基礎とするコミュニケーション能力の向上」とした。
- ・具体的な取組み内容は以下の2点とし、2年間の実践の出口として、話すこと・書くことの領域にも活用できる知識や技能の習得を目指し、それによってコミュニケーション活動に対する自信を一層深めさせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを目標とした。
 - (1) 昨年度と同様、フレーズリーディングの練習を継続的に行なう。単なる読解の方法として理解するにとどまらず、実際のコミュニケーションの場で効果的に活用できる力となるよう、実践的な練習を積み重ねる。
 - (2) (1)を補う形で、リスニングについても昨年度同様、朝リスニングや授業中の継続的な練習を通じて、英語の音声に対する意識・関心を高めさせ、聴解の技能を向上させる。

② 第1回授業交流研究会

【日時】平成16年6月29日(火)

【公開授業】第5限

- ・単元名 CROWN English Series I Lesson 5 Diving into Mystery Section 3
- ・授業学級 1年5組
- ・主な提案内容
 - (1) 本文を英語の語順のままフレーズごとに理解する。
 - (2) 様々な形式で音読を行い、英語を英語のまま理解できるようにする。
 - (3) 学習した内容を英語で要約するとともに、感想を英語で発表する。

【授業研究会】第6限

- ・授業の感想と今後の課題
 - (1) フレーズリーディングと様々な形式での音読が、内容理解において有効に機能している。フレーズリーディングは、昨年度の実践を引き継ぎ、各教員が指導方法を共有している。
 - (2) 英語で内容を要約することと、感想を発表することが最終的な活動として設定されている。全ての活動が、そこに収束する仕組みになっており、実践的なコミュニケーション活動につながっている。
 - (3) ただし、英語で内容を要約し、感想を発表するための具体的な方法については、体系的な指導法がまだ確立されていない。

③ 第2回授業交流研究会

【日時】平成16年11月19日（金）

【公開授業】第5限

- ・単元名 Step Oral Communication I Part4 Lesson 2 Culture Shock
- ・授業学級 1年1組
- ・主な提案内容

- (1) 日本の文化についての情報や自分の考えを、適切な英語表現を用いてスキットの形式で発表しあう。
- (2) デジタルコンテンツを活用して、異文化に対する理解を深める。
- (3) 日常生活の身近な話題に関する情報や考えをやりとりするためのコミュニケーション活動を積極的に行なう。

【授業研究会】第6限

- ・授業の感想と今後の課題

- (1) オールイングリッシュで進行する授業形態が確立している。
- (2) 中学校における show and tell を発展させた形の活動など、中学校の授業との継続性を持つコミュニケーション活動が展開されている。
- (3) 生徒の知的欲求レベルに合った授業内容である。
- (4) 生徒の役割分担が明確に設定されている。ALTも適切に活用されている。
- (5) パワーポイントを使ったリピート練習が効果的である。
- (6) 難解な単語については板書が必要である。
- (7) こうした授業を中学校でも行なうためには、①オールイングリッシュでの授業進行、②生徒の立場に立った授業展開、③自然なやりとりの活用、④明確な評価規準、⑤日本語を介さない内容理解、といった観点からの改革が必要であると思われる。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【日時】平成16年11月26日（金）

【参加生徒】1・2年生89名（昨年度・今年度の海外研修に参加および参加予定の40名を含む）

【TOEFL-ITPの結果分析およびその活用・効果】

- ・全体の傾向として、セクション1（リスニング）が良好な傾向が見られた。これは継続的に行なっている朝リスニングや、授業中の聴解練習の効果と言えるのではないかと。
- ・海外研修参加者については、総合判定において特に上位層に集中することはなかったが、下位層には比較的少なかった。事前研修を含めて、研修内容の一層の充実が望まれる。特に、上位層に対する対応を考えていきたい。
- ・海外研修関係以外で希望して参加した生徒にとっては、問題の難しさにショックを受けながらも、今後さらに真剣に学習に取り組むための動機付けとなったものと思われる。

<学習環境の充実>

① 外部講師による特別講座A

【日時】平成16年10月22日（金）、29日（金） 各90分（15時40分～17時10分）

【参加生徒】1・2年生の希望者42名

【講師】朝日大学教授 寺島美紀子先生

【実施内容】昨年度からの研究テーマであるフレーズリーディングの方法について講義を受けた。

キング牧師の演説 I have a dream を使用した記号付けプリントを用いて、センスグループピングによる読解法を学んだ。実際の演説の様子を映像で見せるとともに、時代背景についても詳しく説明していただいた。読解法の理論的な解説だけでなく、音読練習を徹底的に繰り返すことによって、直読直解の感覚を体得させる試みがなされていた。

② 外部講師による特別講座B

【日時】平成16年11月10日(水)、17日(水) 各90分(15時40分～17時10分)

【参加生徒】1・2年生の希望者39名

【講師】朝日大学教授 階戸照雄先生

【実施内容】英語に対する関心・意欲が強い生徒を対象に、広い意味での英語力の向上を目的とする講義が行なわれた。第1回は、先生御自身がどのようにして卓越した英語力を習得されたのかを体験談としてうかがった。第2回は、英語力を測定する各種の試験を概観し、英語力とは何かという問題について考察した後、実戦練習としてTOEICの問題に挑戦した。

③ 大北オセアニアプロジェクト(アデレード市海外研修)の事前研修

【日時】平成16年7月29日(木)、30日(金) 各120分(13時～15時)

【参加生徒】大北オセアニアプロジェクト(アデレード市海外研修)参加者15名

【講師】英会話学校講師 ジョン ウェイド先生

【実施内容】アデレード市海外研修の事前研修として、英会話の練習をはじめ、海外で生活するために必要な基本的知識を習得させること目的として、集中講義を行った。また、研修先で日本の文化を紹介する活動の練習も行った。

④ 英文図書や視聴覚教材の充実

【具体的内容】生徒にとってなじみやすく、活用しやすいという観点から、昨年度と同様にNHKのラジオ講座(リスニング入門・レッツスピーク・ビジネス英会話)のテキスト及びCDを準備した。これらは、土曜日に行なわれる英語特別講座等で有効に活用されている。

<成果と課題>

① 成果

- ・2年間の実践を通じ、中学校・高校が互いの授業の実態をかなり詳細に知ることができた。これによって、6年間という区切りで生徒の学力向上を考える際に、中学校・高校がそれぞれの授業において、どのような点を改善していくべきかが、ある程度明らかになったと思われる。
- ・学年全体で同一の研究テーマに基づいて授業の変革に取り組むことができた。昨年度の実践を引き継ぎ、それをさらに発展させたコミュニケーション活動を出口の目標として設定した結果、授業を従来よりもかなりコミュニケーションタイプなスタイルに変革することができた。
- ・様々な形で生徒が英語に接する機会を与えることができ、英語に対する興味・関心を喚起することができた。

② 課題(今後の方向)

- ・今後も中学校・高校間で年間指導計画・単元指導計画・各種考査・評価規準等の交換を定期的に行なっていきたい。
- ・2年間の実践で明らかになった課題を踏まえ、6年間を見通した生徒の学力向上を意識しつつ、中学校・高校で、それぞれの授業を改善していきたい。